

スロベニア労働市場概要

2016年8月 在スロベニア日本大使館

1. スロベニアの失業率

10.1% (2013年)、9.7% (2014年)、9.0% (2015年)

2. スロベニアの労働市場の特徴

スロベニアの労働者は、高い教育水準、熟練した技術を有し、その地理的環境や歴史的経緯から高い言語能力を有している。一方で、旧ユーゴ時代の名残で、労働者の権利が、他のEU諸国と比較しても法律により強く保護されている。また、スロベニア人は家族との時間を大事にするため、残業を避け、長期休暇を求める傾向がある。スロベニアでは、労働組合の権限が強く、長期に亘り、労働組合を支持母体を持つ中道左派政党が政権を握ってきており、国有企業の民営化や労働法令の改革実施の足枷となってきた。

3. 「家庭に優しい企業」認定制度

「ワーク・ライフ・バランス」の推進は、従業員の満足度や企業への忠誠心を高め、生産性向上に繋がり企業の利益となるのみならず、長期的には社会の利益ともなる。本制度では、2007年より労働・家族・社会問題・機会均等省と民間監査団体「Ekvilib Institute」が協力し、同団体が基準を満たす企業に対し、6ヶ月の監査期間後に仮認定書を、3年間の監査期間後に認定書を発行している。企業側の利点としては、有能な人材確保、低い離職率、生産性向上、学習能力・生産性向上及び良好な労使関係等が挙げられる。

4. 女性の社会進出の現状

スロベニアは旧ユーゴ時代より女性の社会進出が進んでおり、閣僚17人中7名、国会議員（下院）90人中31人が女性である。2015年の女性の就業率は64.7%で、男性の73.3%と比較しても遜色はない。この背景には、①手厚い出産・育児休暇（105日間：100%の給与、その後260日間：90%）、②男性の育児休暇（30日間は100%の給与）、③待機問題がなく安価な保育園、④充実した学童教育等がある。また、子供を持つ女性の就業率もEU内で最高水準にあり、男女の賃金格差も2.9%（2014年）と低い。

5. スロベニアにおける所得格差

OECDの統計（2013年 Factbook）によると、スロベニアは全OECD加盟国の中で、最も収入が平等な国とされている。スロベニアのジニ係数（富の平等を表す数値で、0が完全な平等、1が完全な不平等）は0.24で、ノルウェーやデンマークなどのスカンジナビア諸国を抑えて第1位となっている。ちなみに日本のジニ係数は0.33でOECD加盟国の平均の0.31をやや上回っている。

6. 労働市場の問題点と対応

●従業員の解雇規制が厳しいため、労働市場の流動性が停滞し、生産性の低下に繋がっている。この問題を解決するために、政府は、労働市場の融通性と、労働者社会保障の二つを組み合わせた「フレキシキュリティ（flexicurity）」政策の導入を通じ、従業員の解雇を容易にする一方で、手厚い失業手当、充実した職業訓練等により、雇用者、労使双方にメリットが出るような体制構築を目指している。

●労働組合の影響力が強く、国有企業の民営化や労働法制改革の足枷になっている他、頻発するストライキも問題となっている。政府は、労働者団体と従業員団体の対話に基づく3者間の「社会契約(Social Pact)」締結を促進することを通じて、労使間の関係を円滑化させ、双方が納得する雇用体系の構築を目指している。